

鉄骨工事 Q&A	工場溶接	鋼製エンドタブ	制定	2011年7月1日
			改訂	2019年4月1日

Q. 構造品質を確保するために鋼製エンドタブの切断は必要な処置か？

A.

JASS6においては、柱梁接合部における鋼製エンドタブの切断の要否および切断要領については、特記事項としています。つまり、耐震安全性に関して重要な部位であるために、設計者が判断する内容とされています。

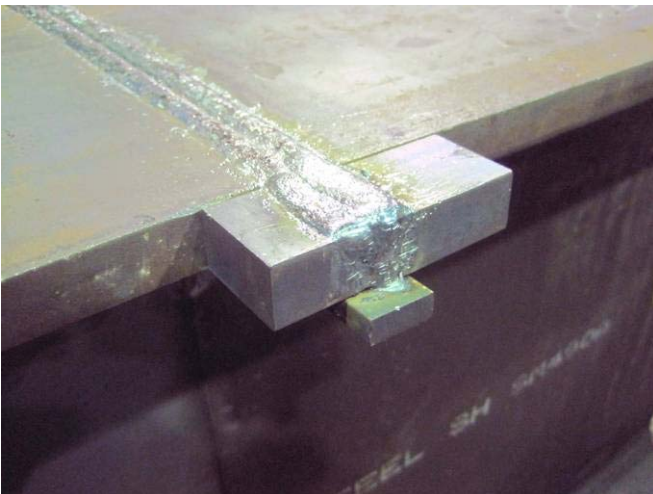
また、切断することが望ましい場合として、鉄骨工事技術指針では以下の3つの条件のすべてに該当する接合部を挙げています。

- ①大地震時に塑性ヒンジを形成し、大きい塑性変形能力が要求される梁端の接合部
- ②梁材490N/mm<sup>2</sup>級鋼とワイヤYGW11の組合せで溶接施工される接合部
- ③柱材に幅厚比25以上の角形鋼管が用いられている接合部

なお、以下の条件のいずれかに該当する接合部では、鋼製エンドタブを切断する必要はないとされています。

- ①終局状態において塑性ヒンジを形成しない梁端接合部
- ②梁材が400N/mm<sup>2</sup>級鋼の接合部
- ③柱材にH形断面柱が用いられている接合部

いずれにしろ、施工者では判断できない内容ですので設計者に確認してください。



エンドタブ切断前



エンドタブ切断後、グラインダ仕上げの例※

※全てこの程度が必要ということではない。あくまで、「例」として示した。